

事例4

< 事例概要 >

- ・ 70 歳代、抗血栓療法中の患者。
- ・ 心臓手術後の左胸水貯留に対し、心臓血管外科で胸腔穿刺を実施。
- ・ 事前にX線画像、穿刺直前に超音波画像で胸水の貯留を確認。穿刺部位は、左第6肋間後腋窩線を選択。
- ・ 試験穿刺で胸水（性状不明）を確認。本穿刺で想定した排液がなく、角度を変えてわずかに進めた。内套針を抜いたところで血性排液が約800 mLあり、排液中に経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）低下、意識消失。超音波検査で左胸水貯留を確認、胸腔ドレナージを実施し、約2,000 mL以上の血性排液を認め、緊急で胸腔鏡・開胸手術を実施するが、当日死亡。
- ・ 死因は、下行大動脈損傷による出血性ショック。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。